

平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 アールピバン株式会社
 コード番号 7523 URL <http://www.artvivant.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 野澤 克巳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 樋口 弘司
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-5783-7171

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	1,679	13.9	239	82.5	269	554.4	173	
29年3月期第1四半期	1,475	7.2	131	31.1	41	82.2	1	99.0

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 173百万円 (%) 29年3月期第1四半期 38百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	13.27	
29年3月期第1四半期	0.10	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	22,885	12,264	53.6	937.88
29年3月期	23,317	12,287	52.7	939.61

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 12,264百万円 29年3月期 12,287百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		15.00		15.00	30.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		15.00		15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

29年3月期中間配当金(1株当たり配当金)の内訳: 普通配当5円00銭 特別配当10円00銭 合計15円00銭
 29年3月期期末配当金(1株当たり配当金)の内訳: 普通配当5円00銭 特別配当10円00銭 合計15円00銭
 30年3月期中間配当金(1株当たり配当金)の内訳: 普通配当5円00銭 特別配当10円00銭 合計15円00銭
 30年3月期期末配当金(1株当たり配当金)の内訳: 普通配当5円00銭 特別配当10円00銭 合計15円00銭

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,450	7.6	300	4.2	340	67.1	200	101.7	15.29
通期	7,150	8.2	640	34.6	670	34.3	380		29.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	15,463,816 株	29年3月期	15,463,816 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	2,386,612 株	29年3月期	2,386,612 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	13,077,204 株	29年3月期1Q	13,077,204 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得の回復は緩慢であるものの、個人消費や企業の生産活動、インバウンド需要、輸出は緩やかに持ち直しており、緩やかな回復基調が続いております。

このような状況の下、当社グループでは、第34期は年度方針として「チャレンジ!アクション!スピード!」を掲げ、中長期的な視点に基づき、人材、組織など中長期的な成長に向けた経営基盤固めを実践するとともに、「アート関連事業」及び「健康産業事業」において、新規顧客の開拓及び過去に捉われず新たな収益基盤の創造に邁進してまいりました。

また、引き続き、「絵のある豊かな生活(くらし)」によって、一人でも多くのお客様に夢や希望を感じていただけるよう営業活動を推進し、基幹の「アート事業」を中心に積極的な営業展開を行うとともに、組織の効率化やコスト削減に努め、収益力の改善に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,679百万円(前年同四半期比13.9%増)、営業利益239百万円(同82.5%増)、となりました。また、前期における円高による為替差損の計上がなかったことにより経常利益269百万円(同554.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は173百万円(前年同四半期は1百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

事業の種類別セグメント業績は、次のとおりであります。

◆アート関連事業

当社グループの主力事業である絵画等販売事業におきましては、引き続き、新規顧客獲得に主眼をおいた営業活動に注力をし、また、イラスト系グッズ販売におきましては、グッズ専門店やグッズ通販サイトの運営を強化し、新規顧客の獲得及び取扱アーティストのブランド化や新作家開発に努め、版画の売上拡大につなげてまいりました。

この結果、版画の出荷が順調に推移したことにより、売上高は1,076百万円(同11.8%増)となり、営業利益は95百万円(同554.0%増)となりました。

◆金融サービス事業

金融サービス事業におきましては、引き続き、当社及びその他一般加盟店の顧客に対する個別信用購入あっせん事業を中心に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は279百万円(同3.3%減)となり、営業利益は186百万円(同25.2%増)となりました。

◆リゾート事業

「タラサ志摩ホテル&リゾート」におきまして、本来の強みである「タラソテラピー」を軸に商品展開・営業活動を行い、リピーター率の高い施設を目指して運営をいたしました。

また、ホテルには前期よりアートを扱うアールピバンならではの、現代アート作品(「草間彌生」の代表作「南瓜」のオブジェをはじめ、「村上隆」、「奈良美智」、「アンディ・ウォーホル」「シャガール」など)を40点近く展示をしております。

前年度の伊勢・志摩サミットの影響による宿泊数の減少が回復し、売上高は163百万円(同44.1%増)となり、営業損失は16百万円(前年同四半期は62百万円の営業損失)となりました。

◆健康産業事業

フィットネスクラブ「カルナ フィットネス&スパ 柏」におきまして、引き続き、ホスピタリティ精神を大切に質の高いサービスの提供及び新規会員の獲得数アップと既存会員の退会防止、客単価の上昇に主眼をおいた営業活動を推し進めてまいりました。

また、平成28年7月より溶岩石を用いた女性専用のホットヨガスタジオ「アミーダ」の展開を開始しており、順次出店を行っております。

この結果、売上高は170百万円(同42.6%増)となり、「アミーダ」の出店費用が先行しているため営業損失は41百万円(前年同四半期は10百万円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は20,082百万円となり、前連結会計年度末に比べ455百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が736百万円減少、商品及び製品が346百万円増加したことによるものであります。固定資産は2,802百万円となり、前連結会計年度末に比べ23百万円増加しました。これは主に建物及び構築物が73百万円増加したものの、長期貸付金が64百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は22,885百万円となり、前連結会計年度末に比べ432百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は8,330百万円となり、前連結会計年度末に比べ211百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が245百万円減少したことによるものであります。固定負債は2,289百万円となり、前連結会計年度末に比べ198百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が230百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は10,620百万円となり、前連結会計年度末に比べ409百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は12,264百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益173百万円があったものの、剰余金の配当等に伴い利益剰余金が196百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は53.6%（前連結会計年度末は52.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において連結業績予想の範囲内で推移しており、平成29年5月24日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はございません。連結業績予想の概要の説明は平成29年5月24日に公表しました「業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,243,427	4,507,400
受取手形及び売掛金	10,429,822	10,368,500
商品及び製品	4,213,926	4,560,174
仕掛品	6,163	1,988
原材料及び貯蔵品	51,807	58,462
前払費用	135,237	128,490
繰延税金資産	221,263	223,381
その他	423,503	440,009
貸倒引当金	△187,001	△206,037
流動資産合計	20,538,150	20,082,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,512,674	1,593,996
減価償却累計額	△1,148,361	△1,156,123
建物及び構築物 (純額)	364,312	437,873
土地	227,722	227,722
リース資産	88,157	88,157
減価償却累計額	△2,675	△7,083
リース資産 (純額)	85,482	81,074
建設仮勘定	7,128	—
その他	365,335	373,954
減価償却累計額	△323,824	△326,467
その他 (純額)	41,510	47,486
有形固定資産合計	726,156	794,156
無形固定資産		
その他	46,051	46,379
無形固定資産合計	46,051	46,379
投資その他の資産		
投資有価証券	426,315	420,683
長期貸付金	825,991	760,997
敷金及び保証金	221,181	230,331
繰延税金資産	280,631	280,727
その他	861,608	846,075
貸倒引当金	△608,399	△576,451
投資その他の資産合計	2,007,330	1,962,364
固定資産合計	2,779,538	2,802,900
資産合計	23,317,689	22,885,271

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	282,127	314,053
短期借入金	2,575,000	2,330,000
1年内返済予定の長期借入金	1,060,808	1,065,752
リース債務	18,057	18,208
未払法人税等	238,334	117,306
前受金	1,290,877	1,300,219
割賦利益繰延	2,493,496	2,457,893
賞与引当金	59,934	89,305
返品調整引当金	21,828	8,741
その他	501,265	629,209
流動負債合計	8,541,729	8,330,690
固定負債		
長期借入金	2,070,784	1,839,926
リース債務	75,102	70,488
退職給付に係る負債	152,823	151,167
資産除去債務	132,430	133,127
その他	57,329	95,052
固定負債合計	2,488,469	2,289,761
負債合計	11,030,199	10,620,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,656,000	1,656,000
資本剰余金	6,706,301	6,706,301
利益剰余金	5,192,338	5,169,659
自己株式	△1,328,892	△1,328,892
株主資本合計	12,225,748	12,203,070
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106,561	104,607
退職給付に係る調整累計額	△44,820	△42,858
その他の包括利益累計額合計	61,740	61,749
純資産合計	12,287,489	12,264,819
負債純資産合計	23,317,689	22,885,271

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,475,109	1,679,647
売上原価	585,308	683,083
売上総利益	889,800	996,563
販売費及び一般管理費	758,518	756,936
営業利益	131,282	239,626
営業外収益		
受取利息	6,250	3,083
受取配当金	2,308	4,763
貸倒引当金戻入額	202	12,912
為替差益	—	9,158
その他	5,234	5,802
営業外収益合計	13,994	35,721
営業外費用		
支払利息	7,060	5,502
為替差損	96,053	—
その他	1,021	594
営業外費用合計	104,134	6,097
経常利益	41,141	269,250
特別利益		
固定資産売却益	1,041	—
特別利益合計	1,041	—
特別損失		
減損損失	2,470	216
特別損失合計	2,470	216
税金等調整前四半期純利益	39,713	269,034
法人税、住民税及び事業税	38,011	97,073
法人税等調整額	332	△1,518
法人税等合計	38,344	95,555
四半期純利益	1,369	173,479
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,369	173,479

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	1,369	173,479
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42,414	△1,953
退職給付に係る調整額	2,095	1,962
その他の包括利益合計	△40,319	8
四半期包括利益	△38,950	173,488
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△38,950	173,488
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	アート関連 事業	金融サー ビス事業	リゾート 事業	健康産業 事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	962,917	286,588	106,211	119,391	1,475,109	—	1,475,109
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	2,136	7,488	—	9,625	△9,625	—
計	962,917	288,724	113,700	119,391	1,484,734	△9,625	1,475,109
セグメント利益 又は損失(△)	14,602	148,879	△62,191	10,287	111,577	19,704	131,282

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額19,704千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。当該事業による当第1四半期連結累計期間の減損損失の計上額は2,470千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	アート関連 事業	金融サー ビス事業	リゾート 事業	健康産業 事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	1,076,496	276,555	156,330	170,264	1,679,647	—	1,679,647
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	2,762	7,454	—	10,217	△10,217	—
計	1,076,496	279,317	163,785	170,264	1,689,864	△10,217	1,679,647
セグメント利益 又は損失(△)	95,498	186,345	△16,505	△41,835	223,503	16,123	239,626

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額16,123千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。当該事業による当第1四半期連結累計期間の減損損失の計上額は216千円であります。